

令和2年度 第1回地域家庭教育推進相双ブロック会議 実施報告書

(相双) 教育事務所

1	実施予定期日	令和2年6月26日(金) 13時15分～15時30分
2	出席予定者数	26名 学識経験者(座長) 学校・PTA関係(4名) 親子の学び応援講座実施PTA(1名) 放課後子ども教室(1名) 家庭教育応援企業(1名) 特定非営利法人(4名) 行政関係(11名) 事務局(3名)
3	書面開催	※ 各構成員からの意見(下記)
I	コロナ禍のため、十分な活動ができなかったとは思いますが、今年度、所属する団体や地域等で、「家庭教育3つの提言」に関する取組がありましたら、御記入ください。	
	<p>【学校関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの影響から地域の方々の来校を制限せざるを得なかった。 (授業参観や文化祭も保護者のみで、家族や学校支援ボランティアの方々も来校なし。) ・ 「家庭教育3つの提言」については、学校だよりを通じての提言にとどまった。 ・ 提言2「心身のバランスのとれた成長」に関する取り組み 今年度復活したPTA教養委員会の取り組みとして11月3日の文化の日に「親子ウォーキング」を開催した。当日は子ども、保護者、教員合わせて56名の参加があり、親子で町内の知られざる歴史を紐解きながらウォーキングを楽しんだ。 ・ 提言3「メディアとの関わり方の手本は大人から」に関する取り組み 本校児童の中には、メディア依存症の可能性を秘めている者がおり、親子でメディアとの関わり方を見直す機会として平成30年より「わが家のメディア利用の約束」を親子で決めて各家庭で実践してもらうとともに、学校全体としても水曜日はノーメディアデーとして親子の話し合いや親子で読書をしたりするよう協力を呼びかけている。今年度はコロナ禍ということもあり直接的・積極的な呼びかけは実際あまりできなかった。 また、情報端末使用に関するアンケートをとり実態を把握し、個別指導を行うとともに家庭の協力を呼びかけながら子どもの健全育成に努めている。今年度は、年度初めに臨時休業期間があったせいか情報端末使用の時間が増加している傾向が見られた。SNS等の利用によるトラブルが多少であるが発生しており継続指導が必要である。 ・ 「地域との関わり」については、今年度は、コロナ禍のため、地域に出での活動や地域との連携を図った活動ができなかった。そのような中でも、保護者や地域の方の協力もいただいて各校で月の1日や15日の前後に、交通事故防止のための立番等が行われ、児童生徒の事故防止に関わってきた。 ・ 「心身のバランスのとれた成長」についても、コロナ禍のため、屋外での活動が制限されたり、下校後や休日の交流が制限されたりしたため、十分な取組を行うことはできなかったとらえている。 ・ 「メディアとの関わり」については、臨時休業や家庭で過ごす時間の増加により、ゲームやスマートフォン等のメディアと接する機会が増加した。そのため、就寝時刻が遅くなったり、朝目覚めが悪かったりする児童生徒が増加してきているとらえている。また、深夜のゲームに夢中になり、昼夜逆転傾向の児童生徒も見られ、不登校・不登校傾向に拍車がかかっていると感じている。そのような中、各校ではPTAとの連携により、メディアとのつきあい方に関する啓発プリント等を発出し、保護者の協力を得るように努力している。 <p>【市町村】</p> <p><新地町公民館 …生涯学習の中で「家庭教育学級」を実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各小学校での就学時健診時に「子育て講座」(講師:教育長)を実施。 「心身ともに健やかな子どもを育てるために」という演題のもと3つの提言に関する内容を含めた講話や図書館司書による読書のすすめ等、家庭教育における重要性について保護者に学んでもらう。 ・ 尚英中学2・3年生・新地高校全校生に「性教育講座」(講師:婦人科医師等)を実施。 性に関する正しい知識を身に付け、命の尊さについて学んでもらう。 <p><南相馬市原町生涯学習センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ …親子で自然の大切さや地域の歴史等を学ぶ機会として「子ども自然体験学習事業」を実施 ・ 第1回 水辺のいきもの観察会 (11家族 25人) ・ 第2回 野菜収穫体験 (7家族 21人) ・ 第3回 みなみそうまの古代史探検隊 (10家族 34人) 	

<川内村放課後子ども教室>

- ・ コロナ禍により他団体との交流体験等は中止となったが、3密を避けるための外遊びを中心に、野球、バドミントン、なわとび、鬼ごっこ、雪遊び等の運動をする機会が多くなった。
- ・ ほとんどの子どもが元気よくあいさつできていた。

<富岡町教育委員会>

- ・ 地域との関わりはあいさつから
町内小中学校では、生活科や総合の授業の中で、地域住民とふれあい、その関わりの中であいさつを積極的に行ったり、地域ボランティア活動を通して、気持ちのよいあいさつが地域貢献の一つとなることを指導したりした。
- ・ 心身のバランスのとれた成長
小学校の放課後活動の一つとして、児童が地域住民や教職員と一緒にグランドゴルフ体験を行ったり、金曜日は、地域のスポーツ団体(さくらスポーツ)によるサッカー教室を実施したりして運動に親しんだ。
町内小中学校では、昼休みの外遊びを推進しており、子どもたちと一緒に教職員も積極的に外で活動した。
- ・ メディアとの関わり方の手本は大人から
家庭教育講演会で保護者も交えて講演会を実施する予定であったが、コロナのために中止になった。(R3年度は、小中で児童生徒・保護者対象に行う予定。)
長期休業前には、児童生徒対象に正しいメディアとの関わり方について指導を行った。

<大熊町教育委員会>

- ・ あらゆる面で、リモート会議・オンラインでのかわり等、間接的な状況下を余儀なくされ、極小人数の大熊小・中学校では、直接的な他とのコミュニケーションが寸断された思いがある。
- ・ IT等に関するリテラシーは他地区の児童生徒より高度な技術量は兼ね備えているものの、対人間や対地域などとの接点かわりにはコロナ禍の中では不十分な面がみられた。
- ・ 「メディアとの関わり方の手本は大人から」の提言
長時間のテレビ及びゲーム、携帯電話及びスマートフォン等、利活用については、ステイホーム最中家庭ルール化を構築できたのではないかと。

【NPO法人】

- ・ 提言3について
メディアに興味を示す子どもが多く、最近ではYouTubeに自分の動画をアップし、自称ユーチューバーを語っている子どもがいます。ソーシャルスキルトレーニングとして、ネットにひそむ危険性も療育にも取り入れている。
- ・ 提言1について
NPO法人の特性を生かし、南相馬市民活動センター様主催の地域巡りや動画製作講座などのイベントに子どもとスタッフが共に参加させていただくなど、地域活動にも幅広く参加させていただいている。

【家庭教育応援企業】

- ・ 別紙「福島県家庭教育応援企業等推進活動報告書」のとおり
* 新型コロナウイルス感染防止対策から、当社主催のイベントの多くが中止されているとともに、地域イベントも中止となったことから、例年のような活動が実施できていない状況です。

II 「家庭教育3つの提言」は平成29年2月のブロック会議で作成され、来年度で5年目を迎えます。子どもたちを取り巻く環境の変化や現在の状況を踏まえ改訂した事務局案について、改訂の是非も含め、御意見をお聞かせください。
次年度ブロック会議の資料といたします。

- 機会があるごとに、印刷し意識を高めていきたいと思えます。
- 事務局案での改訂に賛成
- 事務局(案)『提言2』「**心身の**バランス・・・」と入れた方がより伝わりやすいように感じる
※ 当たり前の生活ができにくくなっている中で、子どもたちの未来を守るために「3つの提言」は繰り返し伝えていく大切な内容だと思う。
- 各提言への思い
 - ・ 提言1:コロナ禍で地域の行事なども中止や規模縮小になっているため、地域と子どもたちのつながりや人と人とのつながりにあいさつは必要(大切)なので良いと思う。
 - ・ 提言2:手伝いなど体験して得る知識や体力向上のためスポーツや外遊びで運動する機会を増やすことは良いと思う。
 - ・ 提言3:メディアは生活の一部にもなってきており、子どもだけでの判断は危険が伴うので、保護者の点検と一緒に利用ルールを決めることは必要だと思う。

- 提言への考え
 - ・ 提言1:コロナ禍で地域の方々との体験活動は減少したが、あいさつをしたり地域の人との体験を通してつながることによって「不審者対策」につながる効果が期待できるので良いと思う。
 - ・ 提言2:コロナ禍で肥満化や体力不足が進んでおり課題解決策として有効であると思う。
 - ・ 提言3:「ひそむ危険や影響」、SNS等の利用による健康や生活への悪影響が深刻になってきており、緊急に取り組む必要があることから適当であると思う。
- 具体的な表示でとてもわかりやすい。
 - ①つながる ②機会を増やす ③一緒に話し合い点検する等、家庭で一緒に取り組んでみたくなる内容だと思う。
- 東日本大震災から10年という節目に合わせて、今日的課題解決に向けた内容と表現に変更されているようですので、賛成いたします。
- コロナ禍であっても、改定案のような取組、啓発は継続していくべきであると考え。「1」にも記入いたしましたが、問題はさらに大きく、深くなりつつあるとらえている。ぜひ、推進していただきたい。
 - ・ 「あいさつ」については、地域を巻き込み、全体で集中して取り組まないといけないことと考える。当初はなかなか地域の中でのあいさつは進まないと思うが、続けていくと、地域の方のみならず、児童生徒、特に高校生にも広がっていくことは確実である。
 - ・ 特に、「メディア」については、案のような取組をどの団体が率先して取り組み、他の団体も協力していかないと問題はさらに大きくなっていくと考えている。ただし、全ての家庭の協力を得ることについては大変困難であることも事実である。
 - ・ 双葉郡内においては家庭環境だけでなく、地域の実態もその自治体によって差が大きい。本町のように家庭と地域の連携がまだ不十分な所もあるので、家庭教育を通して地域再生も図っていくような提言であってもよいと思う。また、今年度は新型コロナの影響で様々な活動が中止になっており、家庭教育についても考える場が少なかったように感じるので、改訂については再来年度(令和4年度)でもよいと思う。
- 各学校への通知とともに、具体的な実践活動について、推進者(教頭中心)に依頼したことで、習慣性が確立されていると思われる。

Ⅲ 家庭教育全般に関して気になることや、次年度のブロック会議で協議したいことなどがありましたら御記入ください。

- コロナ禍の中で地域コミュニティを活性化させるには、こうした内容の実践事例があれば伝えてほしい。
- 震災、全町避難、帰町後地域コミュニティが動き出した矢先でのコロナ、昨年は次々に活動中止になり残念であった。
- 家庭教育を進めるうえで、きれめのない教育として「3つの提言」は未就学の幼児(保育所・幼稚園等)から必要であると考え。(あいさつ、アウトメディアなどに関する「親の学び」の機会が必要)
- まずは「3つの提言」に向け、親御さんの教育をしっかり進めなければ子どもには響かないと思うので、保護者支援(教育)の在り方、取り組みについて協議していただければと思う。
- 相双ブロック管内において、家庭教育応援企業に登録している企業は10社ございますので、本会議の資料で他社の取り組みを紹介していただき、是非参考にさせて頂きたいと思えます。
- コロナ禍により、学校においては、保護者の転職・離職、長時間勤務、勤務箇所の遠距離化等の問題が見えてきている。そのため、児童生徒のみでの朝や夜間の生活に伴う危険の増加、食事の偏りや栄養不足、過食等の問題の発生、深夜のゲームによる生活の乱れと不登校の発生等、提言案とはかけ離れたつある実態も起こっている。重要な課題として共有していければよいと考えている。
- 家庭教育と地域協働で何か関連付けられればさらに内容が深まるのではないと思う。
- ニュースなどの報道で町内の児童生徒の活躍を目にした町民は誇らしげに思うだろう。その一方で、「大熊というイメージ」の存在を気にして表面に出ない・出せない子どもたちも少なくない耳にする。子どもよりも親の意識・考えによる影響も否定できない。
震災から10年目を迎え、本町のみならず、相双地区で課題を抱えている子どもたちや親御さんへの「誰もが平等に享受できる教育的環境条件」等の視点をどのような切り口で進めていけばよいかを協議・検討することも必要に思う。